

## 原発関連の動き

(赤：国外関連、青：地震など関連情報、緑：事故など)

「2018年1月」

### 2018年

- 1月2日 19時48分ごろ、東京湾を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.2と推定。埼玉県草加市、さいたま大宮区などで震度3。
- 1月3日 新潟県が、柏崎刈羽原子力発電所で事故が起きた場合、原発から7キロのオフサイトセンターではなく、県庁に災害対策本部を置く新たな地域防災計画。
- 1月3日 メガバンクと国際協力銀行を含む銀行団が、日立製作所の英国原発新設プロジェクトに対し、総額1.5兆円規模の融資を行う。事故などによる貸し倒れに備え、日本政府がメガバンクの融資の全額を債務保証する。
- 1月3日 中部電力が浜岡原発4号機の審査合格後に、5号機も申請する方向で検討。見通しが立っていない6号機計画についても「白紙撤回したわけでない」との考え。
- 1月4日 カナダの大手投資ファンド、ブルックフィールド・ビジネス・パートナーズが、東芝の米原発子会社で経営破綻したウェスチングハウス(WH)を買収すると発表。
- 1月4日 東京電力の川村会長が年頭のあいさつで、原発事故の処理に必要な16兆円の捻出について、「約16兆円もの資金を確保する必要があります。収益改善や柏崎刈羽原子力発電所の再稼働。大変厳しいものではありませんが、私たちが背伸びして頑張れば、普通に立つだけでなく、ストレッチして頑張れば届くところにある目標だと思っています」「背伸びすれば届く目標だ」との見解を示す。
- 1月4日 東京電力ホールディングスが、他の電力会社と原発の定期検査で提携して人員やノウハウを補完し合うことを検討。原子力分野の再編統合に向けた取り組みの一環。原子炉の型が同じ電力会社を中心に呼び掛ける見通し。
- 1月4日 九州電力の瓜生道明社長が年頭の挨拶で、玄海原発3、4号機)の再稼働を今春に計画していることを前提に「原子力の自主的、継続的な安全性向上」、「今後、再稼働が大詰めを迎えるが、これはスタートにすぎない」。
- 1月5日 午前11時2分ごろ、富山県西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは3.9と推定。石川県七尾市、中能登町で震度3。
- 1月5日 午前11時02分ごろ、茨城県沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。茨城県 神栖市溝口で震度3。

- 1月5日 三菱重工業が、フランスの電力公社の原発製造子会社「フラマトム」への出資を完了したと発表。
- 1月6日 午前0時54分ごろ、千葉県北西部を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.8と推定。東京都中央区、港区、品川区、渋谷区、葛飾区、調布市、町田市などで震度4。
- 1月6日 午前4時38分ごろ、伊豆半島東方沖を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.4と推定。静岡県東伊豆町などで震度3。
- 1月6日 午前5時48分ごろ、伊豆大島近海を震源とする地震が発生。地震の規模を示すマグニチュードは4.6と推定。千葉県鋸南、南房総市富浦町、静岡県東伊豆町などで震度3。
- 1月6日 関西電力が自社原発で保管している使用済み核燃料を、青森県むつ市に建設した一時保管のための「中間貯蔵施設」に移す方向で検討。
- 1月7日 首都直下地震対策特別措置法で「緊急対策区域」に指定した1都9県の309区市町村のうち、緊急輸送道路を整備したり、燃料備蓄を増やしたりする計画を作った自治体が一つもなかった。